

先生用指導案：AIの答えは、ほんとう？

対象：小学校3～6年生（語彙や記述量は学年に合わせて調整）

時間：45分

教材：漫画6場面、約3分の動画、6問体験ゲーム、児童プリント、筆記用具、黒板または提示用画面、ゲーム用端末（ペアで1台でも可）

目標

1. AIが自信ありげに答えても、正しいとは限らないと説明できる。
2. もとの情報に戻り、日付と条件を比べて答えられる。
3. 根拠を示して言い直し、確かめられないときは断定せず人に相談できる。

準備

- 漫画6場面、約3分動画、6問体験ゲーム、児童プリントを準備する。紙に印刷する場合、架空例のラベルを残す。
- 画面・ゲーム端末はペアで1台でもよい。ネットや端末が使えない場合は、漫画と動画を紙面または教師の読み上げで扱い、ゲーム6問は教師が一間ずつ読み、児童がプリントや指差しで選ぶ。授業の中心となる根拠比較は同じように行う。
- 「ひかり小学校」は架空校であること、登場人物とAI回答例も学習用の作りものであることを確認する。
- 黒板に3手順「いったん止まる／もとの資料を見る／日付や条件をくらべる」を書く。
- 児童が自分のAIアカウントを使う必要はない。実在の児童データや学校情報を入力させない。

45分の展開

時間	学習活動	発問・支援	見取ること
0～3分	導入・授業前課題	AIが言い切ったらどうする？一言で記録。	最初の考えを把握する。
3～8分	漫画6場面を読む	どこに気づいた？何を見て確かめた？	言い方と根拠を分ける。
8～12分	約3分の動画・短い立ち止まり	何を見る？何をくらべる？途中で一言。	確認の手順を言葉にする。
12～17分	お知らせと回答例を比較	曜日・雨の条件に線を引こう。	水曜/雨なら木曜を根拠で説明。
17～27分	ゲーム6問に取り組む	どの資料を見た？根拠を一問ずつ確認。	条件と未確認を区別する。
27～35分	プリント問1～6	まず個人で。必要な児童には読み上げ。	資料へ戻って答えられる。
35～40分	ペアで根拠を説明	答えだけでなく、どの言葉を見た？	理由を伝え、聞き合う。
40～43分	授業後課題	何を見る？何を比べる？不明なら？	授業前の考えとの変化を見る。
43～45分	まとめ	今日から使える行動を一言。	3手順と相談を自分の言葉で。

主な発問と深め方

- 「AIの答えは、どのお知らせの言葉と合わない？」—火曜日と水曜日を対照する。
- 「雨ならどうなる？」—条件文を読み落とさないようにする。
- 「お知らせが見つからないとき、火曜日と決めてよい？」—未確認のまま断定しないことを扱う。
- 「お知らせと別の情報が食い違ったら？」—日付、対象、条件を見比べ、解けなければ大人に相談する。
- 「紙に書いてあれば必ず正しい？」—媒体ではなく、内容・日付・根拠を確かめると整理する。

評価

- 知識・理解：AIの言い切りだけでは正しさを決められないと述べる。

- 思考・判断・表現：お知らせの文を根拠に、晴れ／雨の日程を言い分ける。
- 主体的な態度：資料がない・不明な場合に、決めつけず相談する方法を挙げる。
- 児童プリント7点と授業前後の2点課題を参考にする。点数だけで態度を決めつけず、説明も見る。

配慮

- 低学年や読み書きに困難がある児童には、教師が短文を読み上げ、曜日カードや線引きで「晴れ」「雨」を分ける。口頭・指差し回答も認める。
- 高学年には、別資料の「日付」「対象」「条件」が違う場合を追加で考えさせる。新たな架空事実を実在情報のように扱わない。
- 「AIは必ず嘘をつく」「ネットは紙より正しい／紙はネットより正しい」とまとめない。AIも資料も、内容と根拠を確認する。
- 実在の児童名、学校の予定、個人情報を生成AIに入力させない。実サービスの利用は学校方針・年齢・保護者等の条件を確認して別途判断する。
- 誤答を責めず、どの根拠を見たかを一緒に確かめる。

出典と教材化の方針

- 文部科学省「生成AIの利用にあたって」：生成AIは人の能力を助け得る一方でリスクがあり、児童生徒の利用は発達段階や情報活用能力に留意する考え方を参照。
<https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/ai/about.html>（閲覧：2026-10-26）
- 東京大学 吉田壘研究室「ハルシネーション」動画（ID: ZY8zIHjZrWw）：もっともらしい出力にも根拠確認が必要という論点を参照。保存済み字幕は未校正であり、文言や数値は転載していない。<https://youtu.be/ZY8zIHjZrWw>
- 東京大学 吉田壘研究室「教育における生成AI活用に関する研究」動画（ID: FUwEgh78on8）：AIの使い方や課題設計で学びの結果が異なり得る点を参照。保存済み字幕は未校正であり、個別研究の数値・結論を教材へ転記していない。<https://youtu.be/FUwEgh78on8>
- CLACK「AI Fluency 入門レッスン3：クリティカルシンキング」：出典を見て正確さ・関連性を考えるという論点を参照。保存音声のASR文字起こしは未校正。
https://mirai.clack.ne.jp/wp-content/uploads/2024/09/3_23_AIfluency_ja-JP.mp4
- 児童用の学校・人物・回答・お知らせは独自の架空例。参考資料の文章を長文転載していない。教材利用にあたっては上記原資料の利用条件を別途確認する。